



イチゴ新品种「ひたち姫」(品種登録出願中)

生物工学研究所・園芸研究所

1. 品種の特性

- 1) 果実の特徴：大きくてやや長めの果形が特徴です。糖度が高く、酸度が低いので、甘味を強く感じます。果実は「とちおとめ」よりは軟らかいが、「章姫」よりは硬く日持ちも良好です。乱形果や不受精果など変形果の発生は「とちおとめ」よりも少なく、果形の揃いは優れています。
- 2) 収量：一果房当たりの果数が少ない「果重タイプ」で、2Lサイズ以上の大果の割合が多く、くず果の発生は少ない。収量は「とちおとめ」よりも多く、12月から5月まで安定して収穫することができます。
- 3) 生育：頂果房の開花日および収穫開始日は「とちおとめ」並みかやや遅いのですが、一次腋果房の開花日は「とちおとめ」並みで、その後も連続的に出蕾します

2. 管理のポイント

- 1) 苗と定植期の管理：一果房あたりの花数が少ないので、クラウン径 10~12mm の大苗を定植すること、定植後の株の栄養状態を良好に保つことなど、花数を増加させる工夫が必要です。十分に灌水 (pF1.8 が目安) して活着・初期生育を促進します。標準的な施肥量は4月末までの目標収量を 4t/10a とした時、元肥と追肥の N 成分でそれぞれ 15kg、10kg、合計 25kg/10a 程度になります。施肥量は、地力や生育に応じて調整して下さい。
- 2) 低温期の管理：地温を確保すること、採光を図ること、土壌水分・肥料の過不足を避けることがポイントとなります。「ひたち姫」は基本的には電照や炭酸ガス施用を必要としませんが、厳寒期の草勢低下の抑制、回復に効果が期待できます。
- 3) 収穫・箱詰め・出荷：果実が軟らかいので、傷めないように収穫・選果・選別を丁寧に行います。やや若い熟度の果実を、気温の低い時間帯に収穫し、果実の温度をできるだけ上げないように注意します。予冷庫の利用は効果が高いので、果実の温度が上がる前に収穫、直ちに入庫します。

以上のように、「ひたち姫」は、大果で、酸味が少なく糖度が高い特長がありますが、一果房の果数が少なく、果実がやや軟らかい等の欠点もあるので、導入にあたっては、これらの特性を十分考慮してください。

表 ひたち姫の果実品質および収量 (平成 15 年)

品種名	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	糖酸比 ¹⁾	硬度 ²⁾ (kg)	収量 ³⁾ (g/10株)	一果重 ⁴⁾ (g)	大果率 ⁵⁾ (個数%)
ひたち姫	10.2	0.63	16.2	0.48	3296	15.2	44.7
とちおとめ	10.2	0.72	14.2	0.57	2712	14.0	38.1
章 姫	9.2	0.51	18.3	0.38	3601	12.4	30.3

注1) 糖酸比=糖度:酸度 2) 果実硬度計の貫入抵抗値 3) 7g 以上の果実 4) 全果実平均 5) 大果 15g 以上の果実



図1 「ひたち姫」の頂果



図2 「ひたち姫」の頂果房

<問い合わせ先; 生物工学研究所 野菜育種研究室 電話 0299 (45) 8330、
園芸研究所 野菜研究室 電話 0299 (45) 8341 >